

●●ありがとう●●

真心の車いす届く

村出身の澤口さんから9台目



澤口泰幸さん

8月12日、村茂市出身で福島県会津若松市で新聞店を経営している澤口泰幸さん(63歳)から今年も特別養護老人



9台目の車いすがうねとり荘に寄贈されました



児童書など65冊を購入しました

ホーム「うねとり荘」(齊藤正明施設長、入所者60人)に車いす1台が寄贈されました。

齊藤施設長は「利用者にとって一番大切なものを寄贈いただきありがとうございます。大事に使わせていただきます」と感謝していました。

澤口さんは「これまで、いろいろお世話になった郷里に感謝の気持ちです」と平成9年から毎年車いす1台を同荘に贈り続けて今回で9台目。

また、澤口さんからは村教育委員会にも図書を購入費として3万円を寄贈していただきました。

沼田英雄教育長は「児童生徒の読書活動に有効活用させていただきます」と感謝していました。村図書室では早速児童書など65冊を購入し、子どもたちに貸し出していきます。

【特別寄稿】

宮古湾海戦と普代村



元村郷土史編纂委員 熊谷 文弥さん(77歳)

東京都在住(鳥居出身)

平成十七年七月初旬、普代村図書室の金子功氏から、元普代村郷土史編纂委員の一人であるわたしのところに電話があった。内容は「歴史読本」という雑誌に『宮古湾海戦』が連載されています。いずれ普代村も出てくると思います」と言うことであった。

平成十七年七月初旬、普代村図書室の金子功氏から、元普代村郷土史編纂委員の一人であるわたしのところに電話があった。内容は「歴史読本」という雑誌に『宮古湾海戦』が連載されています。いずれ普代村も出てくると思います」と言うことであった。

「宮古湾海戦と普代村」については平成十五年普代村発刊の「普代村郷土史」に詳述され、さらに発刊後の新資料(大山柏の戊辰役戦史からの引用)を七〇〇―一、七〇〇―二という挿入ページを加え補完している。

このくだりについて、普代村郷土史を挿入ページにより補完する前の郷土史を購入された方々や、普代村郷土史を購入しておられない方々のために、新資料を加えて、「宮古湾海戦と普代村」を取りまとめ再度ご紹介しておく。

このたびの金子氏からの話を調べたところ、歴史読本という月刊誌に中村彰彦という作家が、「軍艦『甲鉄』始末」という表題で平成十四年七月から連載し、十七年八月号か

ら第七章「宮古湾海戦」が記述されている。普代村にかかわったところは平成十七年九月号に少し見られるだけで、この雑誌を購入された普代村の方々や出身者にとっては少し期待はずれではあったと思うが、連載ものは長編であるからどの部分も詳しく触れるわけにはゆかないので仕方ないことである。

要約すれば、幕末に北海道に逃れた幕府軍を追って来て宮古湾に停泊中の官軍軍艦八隻に対して、明治政府に対抗し函館に立て籠もった榎本武揚旗下の三艦が南下、官軍方の旗艦を乗っ取るべく攻撃したが、結局成功せず逃走。北上の途中、速力の遅い幕艦「高雄」が田野畑村羅賀海岸に乗り上げ乗組員九十人ほどが船を捨てて徒歩で、明戸―黒崎―太田名部を通り普代村妙相寺に宿営、野田代官所を通して官軍に降伏した。一行の中には途中で逃亡したり、地元の間人にかくまわれたりした人もあるのとこので、合計七十六人余りが普代に留まったという。寒い時期の三月に全員が妙相寺に宿営できるはずがないと思っていたが、普代村の民間伝承に詳しい金子功氏によると、やはり普代村の資産家、太田名部「大家」大村家、普代「田屋」森田家、普代「上の酒屋」藤島家および妙相寺の四軒に分宿したという。

太田名部「大家」大村家は明治二十九年と昭和八年の津波で流失しているの、私は普代元村の森田家当主眞奈子